資料３

粟島の未来

ふるさと粟島を次世代に承継

1. 粟島浦村の概要

●位置と地勢

村上市の北西35kmに位置し、岩船港から「高速双胴船　きらら」で55分、「フェリーあわしま」で90分の距離にある。周囲23．1kmの孤立小型離島で有り、地形は、標高2265mの小柴山をはじめ島の南北に山並みが走り、平地に乏しい。

●面　積

畑0.90㎢、宅地0.08㎢、森林8.68㎢、その他0.20㎢

●人　口

住基人口では、自然動態、社会動態がいずれもマイナスで少子高齢化が顕著に現れ、平成17年と比較して約12.9%減少し、338人となっている。高齢化率は、　4.2ポイント増加し49.0%となり、中でも釜谷地区は53.0%で高齢化率は顕著となっている。

2. 交通通信体系

●航　路

船名	船体	トン数	定員（人）	速力(ﾉｯﾄ)
あわしま（フ）	鋼	626.0	487	15
きらら（高）	アルミ合金	184.0	170	25

●道　路

村道16km、林道6km、県道6km

北回り道路の村道28号線は、サイクルリングロードとヘリポートにつながる重要路線で、現在新潟県代行事業により2.5km区間道路改良を行なっている。

●高速双胴船awaline「きらら」・フェリー「あわしま」

平成23年就航

平成4年就航

●通　信

○平成20年度に次世代ブロードバンド戦略2010に基きADSL回線を整備、高齢者世帯が多いこともあり普及率が低いのが現状である。村等ではブログ講習会を実施し、村民が粟島浦村のPRを独自に行なっている。

○携帯電離の普及に伴う通信エリアの拡大のため、docomoとauは全島をカバーしている。

○島内での放送施設は、電話回線を利用したオフトーク通信で行なっている。オフトーク自体平成25年度でサービスが終了することからhifiを利用した、放送設備を模索し、島内でスマートフォンをどこでも利用できる体制を整える。

●公共交通活性化協議会

○平成20年4月15日に国土交通省の認定を受け、島内にはコミュニティバスを本土では乗り合いタクシーの実証実験を行ない、平成24年度から本格運行を行なっている。

3. 産　業

●既存産業

○漁業は、好漁場を有しているが、年々魚価が低下し、燃料高騰により漁家経済に負の影響を及ぼしている。今後は生産物の付加価値を高め、「魅力ある漁業」の環境づくり推進して後継者育成に努める。

※藻場造成事業

※特産品販売所の建設

○観光は、平成4年に5万7千人の入り込みがあったのをピークに、年々下降状態となっている。今後は、戦略的な観光計画と行動が必要。

区分	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
入込数	28,000	27,000	26,000	23,000	24,000	23,000	23,000	23,000
増減率	−3.4	−3.6	−3.7	−11.5	4.3	−4.2	−	−

当面は3万人の観光客を目指す。

イベントごよみ

○島びらき（5月2～3日）

・歓迎セレモニー
・海上パレード
・特産品販売
・わっぱ煮
・各種イベント

○クリーンアップ作戦（6月第3日曜日）

・島内外からボランティアを募り海岸清掃を実施している。
・国土保全と環境対策から、海洋漂着ゴミを回収
・毎年400人前後の参加者あり

○ホースセラピーツアー（7月 上旬）

○キッズエコツアー（7月～9月）

○歌島（8月末日曜日）

・村上市の音楽仲間が毎年
釜谷の野外ステージ
夕日コンサートを実施。

○磯タコ捕りツアー

15年続く粟島エコツアーの元祖（粟島旅館組合主催）

○竹取物語（10月下旬竹林整備）

○三島交流（10月下旬）

・山形県飛島、新潟県佐渡島、粟島交流会。
※各島の活性化のため実施

粟島はやまゆり植樹

地域再生

自立の道を進めるには、地域の努力、創意工夫が必要であり、そのためには、
人材育成、地域内連携、地域資源の利活用が不可欠である。

●粟島活性化協議会（平成19年設立）

農村コミュニティ・再生活性化支援のため、

●粟島ドリームランド協議会（平成21年設立）

バード、ホース、エコ班で粟島のある宝を生かした観光交流プロジェクト発掘

●緑のふるさと協力隊（平成21年から受け入れ）

1年契約で男女各1名計2名の隊員が「住民とのふれあい」や「新しい視点」で活動している。
今年で4年目を迎えており、定住率は16％

●アイランダー（平成20年から参加）

全国離島が年に1回東京池袋に集まり、離島の定住促進をPRする場

●公営住宅及び空き家住宅

公営住宅13棟、空き家住宅3棟、平成24年度10棟建設予定

4. 医　療

●村営の診療所が1カ所あるが、常駐医師は50年近く不在である。看護師は、2名体制となっている。このうち1名は厚生連村上総合病院と委託契約をしている。

●平成12年12月からTV診療を行なっている。週2回のペースで診察を行なっている。（診察はできるが診療はできない。）

●歯科診療は、平成5年から毎年3～11月の毎週金曜日に新潟大学病院の歯科医師と民間の歯科衛生士が1泊2日で診療を行なっている。

●救急医療体制派、一次的にTV診療で村上病院の医師が所見し、通常は定期船で搬送するが、航行できない場合は、県や自衛隊のヘリコプターを要請している。

テレビ診療の風景

医療体制

区　　分	内　　容
特定検診	5月下旬（国民健康保険以外の人も受診）
事後指導会	保健師による検診後のケアを含む
糖尿病などの教室	医療機関の医師による
各種がん検診	科目により毎年・隔年
TV診療	毎週2回
歯科診療	毎月3月～11月　　毎週金曜日
出張診療	毎年7月～8月　　毎週日曜日

5. 福祉対策

○安心して子供を産み育てる環境づくりの一環として、妊産婦、子ども及びその保護者の健康の保持、増進、さらに通院等に要する費用が経済負担となっている高齢者の健康、福祉の向上を図るため、平成19年1月から乗船利用料の一部を助成している。

○対象者
1. 中学生以上の子ども（付添人も含む）
2. 妊産婦
3. 年金受給者で75歳以上、前年度所得が100万円以下の人

○助成金		
区　　分	高速船（円）	普通船（円）
大人の場合	2，660	1，700
小学生以下の場合	1，390	860
障害者の場合	940	510

高齢者福祉・児童福祉

○高齢福祉

高齢化率50％近くになるに従って、要介護認定者も増加している。島内に入所施設がないため、要介護度の高い者は、本土の施設に入所している。このため少ない被保険者で給付を賄うことになるので、必然的に保険料が高くなっている。

島内には、通所介護センターで週2回のサービスを実施している。サービス体制が不十分のため、今後は福祉分野を強化していく。

予防事業としては、75歳以上を対象に「イキイキ体操教室」、75歳未満を対象にした「かろやか体操教室」をそれぞれ月2回実施している。

○児童福祉

子ども医療費助成の対象年齢を中学生まで引き上げ、さらに妊産婦が医療機関に通院する助成対象回数を15回まで引き上げている。

保育料一律月5千円

6. 教育文化

○義務教育

小中学校併設の校舎が内浦地区に1校あり、釜谷地区の生徒は平成23年度からはコミュニティバスを利用し、登下校している。

○児童生徒の状況

区　分	児童生徒数	学級数	教員数
小学校	4人	2	4人
中学校	7人	2	8人

○社会教育

文部科学省の「放課後子ども教室」事業を中心に実施し、本土の子どもたちとの交流、野外体験など毎年行なっている。

村民のコミュニティ、体力向上を目的に毎年秋に村民運動会を行なってる。

○高等学校及び大学等

中学校を卒業する生徒は100％進学で、ほとんどが村上市ある高校に進学している。島からの通学は不可能のため、村上市にある村営の寄宿舎から通学している。

少子化対策の一環として、昨年より寮費を月46，000円に40，000円に引き下げた。

○奨学金制度

区　　分	月　　額
高　　校	30，000
大　　学	50，000～70，000

●文　化

○国指定天然記念物

名　　称	指定年月日	場　　所
オオミズナギドリ・ウミウの繁殖地	昭和47年7月12日	立島一帯

○県指定文化財

名　　称	指定年月日	場　　所
石造遺物群　一括	平成元年3月31日	観音寺付近(内浦)
木造十一面観音立像　一躯	平成19年3月23日	観音寺内

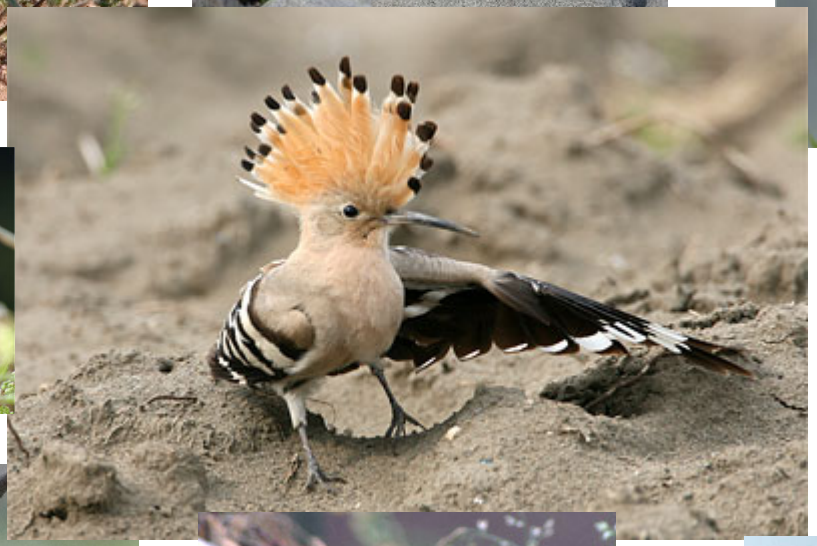
○村指定文化財

名　称	種　別	指定年月日	特　　徴	場　所
大銀杏	天然記念物	昭和57年　4月27日	推定樹齢500～600年	内浦
五輪塔	考古資料	昭和57年12月10日	南北朝時代	内浦
弁天松	天然記念物	昭和63年　2月　7日	推定樹齢300年以上	内浦
狛　犬	彫刻	平成　9年　3月31日	17世紀初頭作者不明	内浦

文化財写真

観光資源1

粟島の野鳥記録(ｵｵﾁﾄﾞﾘ・ｲｿﾋﾖﾄﾞﾘ・ｸﾛｼｮｳﾋﾞﾀｷ・ｷﾋﾞﾀｷ・ﾔﾂｶﾞｼﾗ・ﾎｼﾑｸﾄﾞﾘ・ｵｵﾙﾘ・ｷﾏﾕﾎｳｼﾞﾛ・ﾊｼｸﾞﾛﾋﾀｷ)



7. 財政状況

※平成22年度は、リーマンショック以来の日本経済の不況や、村の漁業の不漁と観光客の減少もあって、島の経済全体が不況の状態にある。その中で、村は自主財源に乏しいうえ、国からの補助金が削減される中で、鋭意歳出削減に努力しているところであるが、住民の満足向上のために限られた財源でサービスの向上を図っている。

区　　分		平成22年度
標準財政収入額		42，341千円
標準財政規模		523，283千円
実質収支比率		32．7％
経常収支比率		84．3％
経常一般財源比率		96．2％
公債費負担比率		11．4％
地方債年度末現在高		924，679千円
積立金現在高	財政調整基金	307，225千円
	減債基金	10，339千円
	特定目的基金	242，308千円
財政力指数		0．08
健全化比率（実質公債比率） （将来負担比率）		9．4（25．0） －（350．0）

8. 未来の基本方針

【総ての村民が優れた、そして調和のとれた自然環境と生活環境の元で、健康で明るく幸せな生活を営むことのできる村づくり】

本村住民は自治を守り、対岸の市町村とは合併せず自立の道を選択した。

小さな自治体が故に自治の機能が果たす役割をしっかりと認識し、生業が失われるとともに徐々に消えていった原風景を取り戻し、「ふるさと粟島」を次世代に承継する。

これからの島づくりコンセプト

- ●ステップ1：つながりの島
- ●ステップ2：命の教育
- ●ステップ3：循環の島

ステップ1:【つながりの島】

1. 在来馬の復活

2. 島に生まれた誇りを住民が持てるような社会教育

3. 在来馬による観光資源で交流の拡大

4. 島にあるもの利活用した新たな観光開発による雇用の創出

学生との交流

* オオミズナギドリ生態調査

長岡技術科学大学が中心となり東京大学・横浜大学・名古屋大学・北海道大学が生態調査及び保護事業を7月～11月まで実施

* 国土交通省学生交流事業

平成23年度から大学生を5名受け入れ、民宿等のボランティアを2週間から1ヶ月間行ない、地元の若者との交流を実施

* 「域学連携」地域づくり実証研究事業

平成24年度に実施予定で総務省に申請中。新潟薬科大学・新潟青陵大学10名参加予定

ステップ2:【命の教育】

* オオミズナギドリや野生馬の活用を通じ、命のつながりを学ぶ地域、特色ある教育と人材育成の場として粟島を位置づける。

1. 潮風留学制度
2. 特色ある教育を推進

ステップ3【循環の島】

* 荒れる野山・竹林を島一面に香り漂うほどのヤマユリが咲き乱れる風景へと整備

* スマートコミュニティ実証実験による再生可能エネルギー導入割合20％を達成する取組

* 藻場再生の推進

period

終の棲家
共同生活の推進
保健福祉の充実
高齢化対策
医師の確保

雇用の創出
住みよい環境づくり
若年層の人口増加
新規事業の開拓
UIJターンの推進
都市との交流